

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） よくわかりました。今、30日の質問の中で、ボランティアという言葉が多く、数多く出てきましたが、非常にトイレの清掃はボランティアでできるのかな。これ、私は、本当に本土であれだけきれいなトイレ、使用人数は違いますでしょうけど、きれいなトイレに管理されているのは、やはり、管理料というのは、ある程度組まなければ、ボランティア的な形でトイレの清掃というのは、非常に私は難しいんじゃないかな。そういうような感じで見てみますと、対馬全体を網羅してみますと、管理するところ、非常にきれいな、国道沿いにあるのは県ですか。県の管理になるんですかね。市が委託してやっているんですね。仁田、御岳ちゅうのは、いつもきれいですよ。ほかのところはどうこうというわけではありませんけど、そういうような形で、もう少し清掃管理費、清掃に対する管理、これを少し見直していかないと、いつまでたっても、直らないんじゃないかなと。

それと、また、管理を毎日していくことによって、修繕費が安くなるということもありますので、そこら辺を今後も検討されて、トイレの見直し計画の中に入れられてやっていかれたほうがいいのではないかなというふうに思いますので、そこら辺もいろいろ検討されながらやっていただきたいというふうに思います。

それでは、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで春田新一君の質問を終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩いたします。再開は、11時5分からといたします。

午前10時48分休憩

午前11時03分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。

15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 一般質問に入る前に、さきの市議選で大変お世話になりましたことを、この場を借りて私御礼を申し上げます。

私は、今回の、対馬が今からわずか20年の間に大変な人口の変動がある。このことを選挙の頭から外れませんでした。平成22年度に対馬の人口動態を九州経済調査会という組織が打ち出しております。これは、島内に就職する一つの現状からその比率、そして定住された方々の寿命、年々、そういうふうな計算方式で出しているわけですが、平成22年度の数字が3万4,407人というふうなことでスタートしております。それから15年たった平成37年、これは2万

2,705人になる、このままいけば。そしてさらに10年を過ぎれば、37年から10年後です。これ、ちょっと一驚ですが、1万5,718人、対馬の人口は半分になる、こういう数字が既に出ておりました。非常に衝撃的なことでございます。

それで、豊玉の高校と対馬高校に私は選挙戦の前に教頭先生、並びにそういうふうな就職の先生の御意見を聞いたんですが、最近5カ年の2校の島内に残る、何人の生徒さんがおりますかという数字を私はあるデータをいただきましたら、15人前後の方々しかそれぞれの高校ですが、そのくらいの数字しかなかったことに、非常に、これは赤信号もいいところでありまして、この事実をよくよく皆さん認識する必要がありやせんかと思っております。

1つ、この中で特に教育長さんに聞いてほしいことがこうでありました。

高校に来る前に、義務教育の段階で、子供さんと親が外に行くことをもう決めてしまうとする、このような衝撃的な発言を耳にしまして、これは市教委含めて、あるいは我々のここに住んでおる親と子供の関係の中でももう少しこの島に残る方向と心意気を私は十分いろいろ尽くす話し合い、そしてその強く残るためにどういう方策をするかは、もう政治の世界もこのことに相当な馬力と方向性をかけないと、以前の思いでそのままやれば大きな失敗になることを思います。

18年後に1万5,000の数字が、なるほど津々浦々を回りまして、あばら家が、瓦がもう抜け落ちて、そういうふうな無様な空き家というのが結構ございました。対馬は将来こういうことになるんだと、もっとひどくなるんだとということを痛切に感じた今回の一部を皆様に報告して、その辺をしっかりと受けとめてそういうふうな今後の体制に心構えをしてほしいと、このように思います。

それでは、通告に従い、市政一般について質問を行います。

旧中対馬病院跡地利用計画の進捗状況についてお尋ねします。

公立2病院統合計画により、中対馬病院については、職員住宅の一部を残し、病院本体は平成28年3月末に解体作業を終え、これに投じた経費は2億8,500万円を投入しております。

これにより、1万1,891平方メートルの更地が生じております。

跡地の利用計画について、平成27年度より対馬農協が中心となり、農協、森林組合、漁協、商工会、真珠組合、建設業協同組合による産業連携拠点、連携拠点施設の整備を目指し、産業会館の建設、道の駅の構想を取りまとめ、市及び県への意思の表示は行ったものの、いまだその方向性がはっきりしておらない、今回、そのような要請を受けてその後の進捗状況について市長にその途中段階を説明をお願いしたいと願うものであります。

2点目でありますが、太平洋クロマグロの資源管理についてお尋ねします。

クロマグロ30キロ以下の操業規制により、対馬海区は334トンの割り当てが既に承知しているところでありますが、ヨコワ漁を軸としていた漁民は、相当なダメージを受けているところ

であります。

2期目になる28年7月1日から29年6月30日までの操業実績等についての報告を願いたいと思います。

また、規制によって苦しむ零細漁民に対する救済措置に対する考えがないかどうか併せてお尋ねをしたいと思います。

よろしく願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 初めに、旧中対馬病院跡地の活用につきましては、所有者であります長崎県病院企業団を訪問し、長崎県病院企業団の意向を確認したところ、長崎県病院企業団としての活用計画はなく、今後、譲渡する方向で進められているとのことでありまして、譲渡の場合においても、第一に対馬市に投げかけをしていただくことを確認しております。

それを受け、対馬市としても雞知地区の中心地であり、重要な土地であると認識しております。庁内で検討委員会を立ち上げ、活用方法などを検討したところではありますが、際立った活用方法は見い出せていない状況であります。

そういった中で、農協を中心とした産業団体より農林水産業、観光事業の振興に向けた道の駅的な拠点施設の整備についての要望があり、県、市、関係団体の担当者レベルで検討をしているところであります。

産業団体における基本的な道の駅の構想としては、対馬で生産、採取された農林水産物等の販路拡大はもとより、新しい観光拠点としての活用、島内供給体制の拠点など、新たな役割を担う拠点施設として考えられており、現在、施設の規模、内容や運営体系、ランニングコストの試算、財源等の確保、近隣事業者等への配慮など、いろんな観点から検証、検討を行っている状況であります。

しかしながら、他市町の道の駅の整備、運営等につきましては、経営、管理面を含め、いろいろな課題があると聞いておりますし、市内の事業者等の調整を含め、慎重に検討してまいりたいと考えております。

中対馬病院跡地の活用に向けた取得等につきましては、市民、議会等に御意見を聞いた中で慎重に取り組んでまいりたいと考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

次に、太平洋クロマグロの資源管理についての御質問でありますけれども、クロマグロの資源管理の概要につきましては、議員既に御承知のことと存じますので、全体的なことにつきましては割愛させていただきます。

沿岸漁業の太平洋クロマグロの資源管理については、6月末で第2管理期間が終了し、今月から第3管理期間に入っておりますが、議員御質問の平成28年度の最終的な実績につきましては、

平成28年7月1日から平成29年6月30日までの第2管理期間の実績で説明させていただきます。

第2管理期間における対馬海区の目標数量は、334トンでしたが、平成29年1月18日時点で、漁獲実績317.8トン、累計消化率95.1%となり、目標数量の9割5分に達したことから、1月19日に県より操業自粛要請が発出され、対馬海区では1月20日からクロマグロを対象とした操業は自粛となりました。

平成29年6月21日時点の太平洋クロマグロの漁獲量は、速報値で長崎県全体の目標数量632.3トンに対し、漁獲量692.4トン、累計消化率109.51%と県全体では上限枠を超えておりますが、対馬海区では、目標数量334トンに対し、漁獲量328.6トン、累計消化率98.37%であり、速報値ではありますが上限枠を超えてはおりません。

これは、ひとえに1月20日からの操業自粛後、334トンの目標数量の上限を超えることがないように、クロマグロの混獲を避けるために漁場を変えたり、混獲した場合でも放流に努めたりと、対馬の漁業者皆様が身を削ってのクロマグロ資源の適切な管理に取り組まれた努力の賜であり、ただただ頭が下がる思いでございます。

クロマグロの資源管理も含め、水産業は自然環境の変化や漁獲対象資源の変動などの影響を受けやすい産業でございますので、漁業者の皆様にはぜひ漁業収入が減少した場合など、不測の事態に備えた漁業共済や計画的に資源管理に取り組む漁業者を対象とした漁業収入安定対策事業を御活用いただきたいと存じます。

市のほうでも漁家の経営安定及び後継者対策としまして、漁業共済事業の推進を図るため、漁業共済掛け金の一部を補助しておりますが、今後、1人でも多くの漁業者が漁業共済に加入できるよう支援策について検討してまいります。

クロマグロの資源管理が厳格化する中、市といたしましては、国、県の指導、助言を仰ぎつつ、沿岸、クロマグロの操業承認を受けた漁業者の皆様が対馬海区におきまして平等にクロマグロを漁獲できるよう、対馬振興局、漁協など関係機関としっかり連携して取り組んでまいります。

また、漁業者皆様の声にも耳を傾け、クロマグロの資源管理を適切に行う上で何らかの支援が必要な場合、機会あるごとに国、県に提案、要望を行ってまいりたいと存じます。

今後も、対馬の漁業者の生活の安定と市民が将来にわたって対馬の豊かな海の恵みを享受できるように、引き続き水産業の振興と海洋資源の保全に取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ただいまの報告を聞きまして、平成27年度に農協、森林組合、商工会、真珠組合、建設業協同組合等の話し合いがなされ、そして対馬市、そして長崎県病院企

業団のほうには正式な書類等は上がっておりませんが、対馬市にちょっと確認しますが、農協がそういう計画書を持ってこられる前に、対馬市のほうはその利用について、市独自の検討をやられたということを聞いておりますが、その辺について対馬市は全くなかったんですか、その候補といたしますか、内容は。

それを担当部長のこれ確かしまづくり推進本部のほうだと思いますが、2遍ほどやっていますね、そういう委員会を、その結果を報告してもらえませんか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 担当部長のほうに答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） しまづくり推進部長、阿比留勝也君。

○しまづくり推進部長（阿比留勝也君） おっしゃるとおり、そういったことで庁舎内で各部署から何か活用方策はないかということで検討しましたが、具体的にこういったものといった例は上がってきておりません。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ただいま市長の報告では、その異職的な団体の構成の中で立案されておる内容について検討中であるという話をされましたが、検討をどこまでされとるんですか。

27年度にそういうふうな話が上がりまして、求めた資料では、数字は入っていませんよ、数字といたしますか、事業量が入っています、経営の中身は何も入っていませんよ。だから、何を検討したんですかね。

というのは、時間がたって、話も何も前に進まんじゃないかということで、どっちかということはどうしておるかというふうなことであるんです。

その辺について、何を検討されたか、ちょっと教えてください。

○議長（小川 廣康君） しまづくり推進部長、阿比留勝也君。

○しまづくり推進部長（阿比留勝也君） 農協と漁協、森林組合さん等から提案があったのは、産業会館と道の駅的なものという話がありました。

産業会館につきましては、これは自分達で何とかする、道の駅について市のほうでどうかならんかということですので、それにつきましては振興局と一緒にそれぞれ観光の面のプロジェクトと、農林水産の販売所の目的を持ったプロジェクトという形で農協さんと今後詰めていくということでそれぞれの立場でそれぞれの担当課が出てから、そういった話し合いは進めております。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 平行線ですが、そういうふうなことであるならば、それなりの

話を農協側にすればいいけども、全くナシのつぶてであるというふうなことで苦言が呈されております、正直言いまして。

今、申しあげました中身を、これ、つくっておられる団体の資料は数字も何も経営計画っちゅうのは入っていません、全然。

何をつくって、どんくらのことをする、これは入っていますが。

だから、その歩み寄りが逆に、もし本当にやろうとするならばこれ詰めてよかったんじゃないですか。確か、2年足らずになりますよ。農協さんのほうは不信を持っておられます。森林組合のほうも不信を。

全くそういうふうな、市にはそういう考えがないごとあるというふうな厳しい御意見でございます。それについて検討しよと言いましたけど、本当にやっていますかね。そうじゃないんじゃないですか。それは平行線になりますが、もうそれで結構です、さっきの答えで。

○議長（小川 廣康君） しまづくり推進部長、阿比留勝也君。

○しまづくり推進部長（阿比留勝也君） あくまでも市がするのは、農協さんと産業団体がこういうものを建てたいという素案がない限り、市が産業会館を最初からつくるのか、そういう道の駅的なところで物を売るところをつくるのかといった計画はございません。

あくまでもそういったもの、どういうものをつくるのかという、基本的な考え方がまだ出てきていない、それにつきましては、市の農林水産部局の担当と、振興局の農林水産部局の担当、担当を踏まえながら当然農協さん、産業団体等がどういったものをつくるのかという案が出てこない限り前には進めないと、あくまでもその事業のコンセプト、概算の事業、どういった建物が欲しいのか、そのあたりが出てこないと先に進めないとというふうに理解しております。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） じゃあそのように言いましょう、ね。何で私がこういうことをこの場所ですのかというのは、もう病院企業団に要請をしてくれんかというのが平成27年の9月にやっております。上野議員と私、呼ばれまして、病院側にそういうふうな団体の意向があると、そのようなことを伝えてくれということで承りました。

企業団のたしか会議の折に、一部話したところ、自治体、まず優先、利用計画についてあれば対馬市が優先になります。なければ、そのことについては受けましようということと、最近ですけれども確認をとったところ、土地については2億数千万の金はかかりましたけれども、解体、しかしそれはそれを取るんじゃないなくて、固定資産の評価に対する最近の評価額等の水準で譲渡するような方向でありますというふうなことでありました。

この辺については、病院側は受けることは受けますが、まだ計画はございませんということでもあります。

今、部長さんは、その団体にそれだけの詰めがないから、市役所はことを進めとらんという言い方をされましたが、それ間違いないですね。あちらに伝えますから。

○議長（小川 廣康君） しまづくり推進部長、阿比留勝也君。

○しまづくり推進部長（阿比留勝也君） 市と振興局としましては、それぞれのプロジェクトチームをつくって、その相談に応じていくと、その過程の中で事業費と補助事業等、そのあたりを見つけた上でどういったものができるのかという部分の形がまだ見えてないということをおっしゃいます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 少し、妙なことを私は申し上げなきゃいかんとですが、市に、今ないというふうなお話で市長からもしまづくりの推進本部の部長から申されましたが、市にあるんじゃないかという言い方をされたんですよ、実は、その方々が、私はそのような情報を持ちませんから、どういうことですかと、この場で言えば大きなことになりますからどうしようかなと思ったんですが、例えば、これは1つの方向であります。その対馬市役所の本庁、本社の移転先がその場所に検討が内々であり得るんじゃないかということ、私の口じゃなくて、関係者の中の方から堂々とありました。

これは、市としてはそういうことを簡単にはいじゃあ言えんのはわかりますが、市長、全くゼロですかね、この問題は。そしてまず、これを言えっていうことが無理だと思いますし、私も聞くべきじゃないと思っていたんですが、農協はもう捨て身ですよ、やめるか、なぜそういうことを隠してやるかというぐらいに桐谷組合長が、こんなこと言ったら失礼ですが、知事に直接頼んでいますよね、仲がいいから、間違いなく、中村知事にこの計画を直接口頭で頼んだって言っていました。

そして、私も担当、何ていいですか、振興局の担当部に総務課、それから農業振興普及課、それぞれ集まりまして、そして我々はそのサポートするんだという言い方でありましたが、それでよくわかったんですが、ただ、2年半超える中で一切その後何もないんだと、対馬市こそ独自の構想が裏であるんじゃないかというふうな発言をされましたよ、2人ながら。

僕は、これは先々の計画はどうせわかるんだから、そういうこともあるというふうなことで言えばわかるんですよ。だからその辺で迷ってれば気持ちはわかるんですが、全くないということであれば、また、話はさっきの阿比留部長に言ったように、早う計画書を持ってこんかと、数字を持ち出して、収支を建物の資産の償却、それから営業の売り上げ、それを早く持ってこんかといえどここで済みますが、大きな決断が表に出されんけどあったんじゃないかということ、逆に農協、森林組合側は思っておられました。

この場でコメントを受けるのは、私もよくないと思うんですが、全くないんかどうか、いずれ

最後にはわかるんですから、どうでしょうか、そういうふうなことに捉えておりますが。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、その答弁をする前にこの中対馬病院の跡地の件につきましては、私のほうも病院企業団の理事長のもとに直接行きまして、実は産業団体等から構想が上がってきておりますといった中で市といたしましてもそうなった場合に優先的にこの土地の提供についてお願いをしたいということをもとにお願いをしております。

その際に、冒頭、答弁いたしましたように、第1に対馬市に投げかけを行うよといったことを答弁としていただいたところでございます。

そしてまた2点目の市のほうがここに何らかの計画があるんじゃないか、具体的に市の庁舎を建てるんじゃないかというような御意見がありましたけれども、そんなことは全く検討はしておりません。根も葉もないわさだというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） これ時間がかかるかなと思ったんですが、今の発言で最終確認ということで農協と組織体にこのことを恐らくもう見とるはずですから、しっかりした計画を固めて、その県と市の審査会に早く計画書の提出をして、前に進むことをしなさいというふうなことで本日そういうふうな決断的な、決断じゃなくて、市側の最終的な確認を取ったよということで終わりたいと思いますが、それでよろしいですか。私はそれ以上のことは言いませんが、逆に団体のほうからそういうふうな言葉が出たんですよ。どうやらそんごてであるという話で、私もびっくりしましたけど。それは、最終確認ということでよろしいですね。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 部長のほうからも答弁がありましたように、このことにつきましては、市と振興局のプロジェクトチームの中でもどのようにするのかといったことも協議をされているところでありまして、全く進んでないといったことではないというふうに私は認識をしているところでございます。

そしてまた、そういったことが進んでいないから、もしかしたら市が別の計画で市役所の本庁舎を移転することを考えているのではないかといったような意見を出されたということは、全く私にとっては心外なことでございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そのことを聞いて、私はこの問題の質問を終わりたいと思います。

それで、先ほど言いますように、早急に計画書をつくり上げて、そのことを進めるようなことで伝えます。



この件については、質問を終わります。

先ほど、太平洋クロマグロのことで報告をいただきました。

それで、漁民の実態、配分を受けたことがどうなっておるのか、今まで取ってきた水揚げに対してどれだけのダメージが出るのか、ここらあたりは数字の面ではなかなか把握できませんが、漁民の意見を聞いたことがございますか。

例えば部長さんでも結構ですよ。西村部長さんでも結構ですし、市長でも結構です。

漁民がこのことによってどういうふうな減収になっておるかというふうな、おおむねの、例えばその864隻の全員じゃなくて、それを主とするマグロとプラス、イカを釣るとか、そこらのような組み合わせの中でどれだけの方たちが漁をとっている方たちがどんな目に遭っているか、そしてこの配分がどういうふうな金額になるかということ、もし計算されたら教えてください。もしで。部長さんでも結構です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私のほうから先にお答えさせていただきますけれども、私も漁協の組合長さんや漁民の方から聞いた話といたしまして、その漁業収入がどれだけ減ったかというところまでは、詳しい話は聞いておりませんが、ただ、混獲によりまして釣り上げてきたマグロを船べりで放流するといったことにつきましては、本当にこれ漁民の気持ちをわかってくださいというようなですね。本当に、心に響くような話をされたことを思い出しております。

そして、その放流につきましても、じゃあ、どんだけの放流数量が出ているのかということも市のほうでも調査をいたしておりましたけれども、各漁協とも大方数量的には不明といったようなことでの実績がきているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 引き縄等で操業して、主に中堅的な方の御意見を聞いたんですが、その船団といいますか、仲間がおる中で600万から800万を上げておる方々が今回の配分が334トン、29年度の数字が市は把握しておらんかもしれんですけども、864隻の承認船の隻数配分に方向がなったそうであります。

要は、割ってしまう格好で、360キロから、340キロ前後の1隻当たりの配分となるそうです、平等にやれば。

そうしましたら、これは28年度はもう早く釣ったもんが勝ちで、特に北部のほうは早く釣って、南のほうが遅かったというような数字で、騒動があつとるわけですが、29年度は承認船の配分を全部平等に基本やると、そうしたら1隻当たり360キロです、前後。

それで、鮮魚で市場に売る、これはいいときで1,500円だそうです、高値のとき。悪いときが800円前後で、中間が1,000円ぐらいであろうというような話ですが、高値において

も1,500円に360キロ掛けて54万ですよ。大きな差ですよ、これは。

ほやから、その実態、現実をやっぱり目に遭うたときは、それは、食うていけんということが出ますね。私その辺は担当部長さんが現場でお話聞いたかどうか、聞きたいんですけども、その辺の実態というのを私はこれに関わる人たちは相当な思いでこれを受けとめにやいかんと思います。

この今の配分した数字と、今まで規制がなかった場合のその漁獲額、漁獲高、これをこんなに差があることについて、市長、この現実、確かに補う品、そんなになんと思うんですけど、この現実どう思いますか。どう思うかといっても、どうしようもないんですが、認識はどう認識されます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに、議員さんおっしゃられるように承認隻数875隻で割り戻したときには、1隻当たりが約370キロ弱になるということはお聞きしております。この中で、マゴロ養殖のほうに回した魚につきましては、1匹が確か5,000円ということもお聞きしているところでございますが、ただ、その鮮魚での市場等への出荷となりますと、大きな収益にはなり得ないということで、大変私といたしましても漁民の皆様が本当に困っているだろうなということは実感をしているところでございます。

そういう中で、今、漁業共済掛け金等の助成もいたしておるところでございますが、ここら辺も今後また県とか、国とか交えていろいろと話をしていきたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 先ほどの1,500円は確かに鮮魚ということで、養殖の漁業をやっている関係の漁協の漁民、これは尾崎、西海、犬吠、鴨居瀬、ここの承認船においては夏場で1匹4,500円の値がするそうです。ですからそれが、約500グラム、ですから1キロ9,000円で売れということになるんですね。

それに掛けるその先ほど言いましたキロ数が、私の数字とちょっと市長の数字がちょっと違ったんですけど、僕は864やけど、八百七十幾らでいいですか（発言する者あり）そんな少し下がるかもしれんですね。

それにしても300万ぐらい、全部売ったら300万ぐらいにはなるんですよ。稚魚ばかり夏場にとって、自分の配分を全部金にしたらね。多分、そんな人はおらんだろうと思うんですけど、そういうふうな逃れができるばってん、鮮魚の方はひどい目に遭うと、昔の実績がもう涙のスズメであるということで憤慨しております。

そして市長、もう1つ、この基本をつくった国の方策ですが、2002年、2004年の実績からこの8,000トンを超える漁獲高からそれを半減する方向に今後持っていくますよと、

4,007トンがこれを振り分けますと、今から。大中巻き網2,000トンに沿岸漁業2,007トン、こういうことですね。

それの中で、全国の6ブロックを分けた中で、その対馬の位置づけを申し上げますが、失礼、ちょっとこれ聞いてほしいんですが、日本海の北部が410トン、太平洋北部285トン、日本海西部105トン、太平洋南部245トン、瀬戸内海50トン、九州西部785トン、これが九州西部が全国の中で一番多いんです。

それから、いろいろございますが、その中で九州西部の内訳は、長崎県がそのうちの632トンを配分を受けております。80%ですね。山口県が83トンですよ。福岡、佐賀、熊本、鹿児島、たった13トン。

そうしますと、その長崎県の配分の中で対馬が334トン、壱岐が139トン、五島が122トン、県北35トン、県南2.3トン、334という意味は、対馬がコアで過去操業者実績が国内の中で一番高かった海域であると、こういうことですよ。

そこを抑え込むんだから、被害が一番大きいのが対馬という意味です。そのところを今回、角度をかえてこの規制の期間だけ特別な措置をとってやらないと、大きなことになります。

そこで先ほど市長の答弁で、共済の対応を、掛け捨てですが、これは私もいいと思っています。

しかし、漁民の声から掛ける金が15万掛け捨てですよ。2つのプラス積み立てもありますが、このところを払い切らんっちゃう漁民が結構いましたよ、零細漁民です。

イカは食わん、去年の秋から食うてませんね、全く。最近少し取りだした。ヨコワはとめられた。これはもう首をくくらにやいかんといひよるわけですよ。

そのところを少し角度を変えて話し合いを、今後したいというふうな意向がございましたが、市長、これ1つまた、漁民団体の話を、交わる機会を、多分、今から動いてくると思いますが、一つその辺の心意気をもう1回聞かせてください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この漁業共済の掛け金につきましては、現時点におきまして、漁業共済のみの加入の場合は、国からの補助が現在、今、45%あっております。これに、今、対馬市のほうから8%を追加でかさ上げしているところでございます。

それにまたその上の積立プラスに加入した場合は、国からが75%の補助に格上げがっております。

そういう中で、今現在、対馬市の要綱といたしましては、今現在8%ですけども、これを10%、ここまでは今の時点でもかさ上げすることは可能であります。

ただ、言われたようにこれが今後また県や国、そしてまた漁民の皆様と端的にかさ上げが可能であるかどうかというところは、また関係団体と協議はさせてほしいなというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ぜひ、その、私は掛け捨ての共済の通常あっておった、積み立てプラスは2年前からやっとなるそうですが、掛け捨ての部分の対応をもう一遍じっくり話し合う機会を少し負担をしていただくというふうなことでお願いをしたいというふうな漁民の思いがありますので、今後それを受けてほしいと思います。

ちなみに864隻の規制を受ける期間だけで私はいいと思うんです。それが、今回の対応でありまして、その後については通常の対応に戻すというような特別措置をするべきであろうと思います、個人的には。

それで先ほどの8%、市長あれでしょ、全体の漁業共済に、マグロとか言わずに、それ魚種は対応の中でやっとなる経営の中の共済加入者に対する8%の助成ということですかね、金額で幾らになりますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 済みません。

あくまで、これは漁業共済掛け金を支払う漁業者の皆様の8%、今、市が助成をしているということで、現在の予算要求額といたしまして約700万でございます。

それと、関連いたしまして、ただ私たちが懸念いたしておりますのが、この漁業共済の加入率が約、今現在、33%であります。

ただ、ここのところで漁業共済の加入者だけにそういったところがかさ上げされるということになりますと、そこに公平性が欠けるということになりますので、ここのところがやはり加入率の向上させることが重要なことではないかなというふうに私自身も考えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 最後になるかと思いますが、漁民の要望が1点強いものがございました。

若者がこの島に漁民として、漁業を営むものとして残るとするものがやはりおる中で、新規漁業後継者の船や何か、例えばエンジンを据え替えたり、いろいろやっていますよね。

その方々が27年度の承認船のこを受取る前で、このヨコワの枠に入られんのが非常に困るんだということで、ぜひともそのことについてもう1回、若い後継者については再度さらに話し合いをできる余地がないかということを上級機関に進言してくれんだろうかと、要するに枠はこれ以上増やさんという方針は聞いておりましたが、新規の、今から漁業に従事する若い方々については、これを一つ検討し直してくれんかという強い熱望がございましたので、このことは担当部内の中で県なり、あるいは水産庁あたりに接点をもって進展していただけんかという漁民の強

い要望でございました。

これについて、どうにもならんとか、いやそれは話し合いの余地があるということがあれば、部長のほうでも、あるいは市長のほうでも結構ですが、今のここで簡単な答えが出せるはずはないんですが、そういう熱望です、現場は。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） ただいまの御質問の件につきましては、ちょっと私も詳しい内容をちょっとよく理解できませんので、もう少しあとでも詳しい話を聞いた上で、後日でも回答をさせていただきます。

○議員（15番 大浦 孝司君） これで終わります。

○議長（小川 廣康君） 以上で、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩といたします。再開は1時ちょうどにいたします。

午前11時54分休憩

午後0時58分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

報告をいたします。淵上清君から早退の届け出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。

7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。

通告に従いまして、大きくは2点について市長に質問をいたします。

まず、1点目は木質バイオマス発電についてであります。昨年9月定例会で質問をいたしました。市長の答弁では自然の状況に左右されない安定した事業であり、林業の振興と雇用の確保につながる理にかなった事業であるため、その事業の実現に向けて振興局と市が連携して支援策を検討しているとのことでありましたが、6月定例会前にきた議会答弁等事案対応経過報告書を見ますと、平成29年9月の基本合意をめぐりタイムスケジュールを作成し、九州未来エネルギーや対馬木材事業協同組合も含め、それぞれの機関がスケジュールに沿って検討していくが、チップ価格差の問題が大きく、事業着手へ踏み込める判断にはいたっていない。また、県、市としてランニングコストに対する支援は難しいとのことでありますが、市長の今後の取り組み、また考え方についてお伺いをいたします。

次に、巖原市街地の活性化策について3点お伺いをいたします。

まず、大町通り、馬場筋通りの街路灯についてであります。県道巖原豆蔵美津島線で西の浜